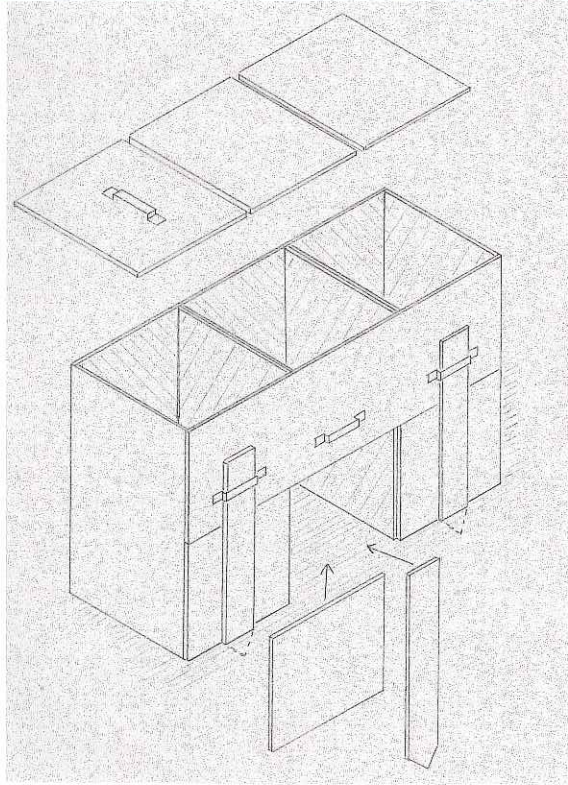


# アイデア作品説明用紙 (整理番号 5017 )

アイデアの名称 土を使う生ごみ処理容器

## ①アイデアの説明図



## ②アイデアの「目的」、「しくみ」、「効果」の説明(300字以内)

土と生ごみを交互に重ね、土に棲む土壌動物と微生物の、共生できる環境により、堆肥化ではなく無機物を残して生ごみを土に還すことが目的です。

横長の木枠を3層に区切り、層別の上蓋と、前面は中間から下を自在にはずせる前蓋を設ける。

枠は、夏期間、一家族で月に一つの層を使う位の容量とする。

使い方は、3~4日分の生ごみと紙屑、折った割り箸、貝殻、鶏の骨などを容器に入れ、ごみが見えない位に土をかける。

1~3層へ順次に入れ、3層まで満たした後1層をスコップで難解物と共に土を掻き出す。貝殻など難解物は、再度生ごみに混ぜることで土壌動物の生活空間ができます。

ごみを減らすという作業であると同時に、身体を動かすことが健康にも役立ちます。掻き出した土は花壇に有効です。

個人情報

【住所】 神奈川県横浜市緑区  
【氏名】 島山 勝重  
【TEL】



←「写真左」  
試作品全景

↓「写真下」  
試作品使用状況

- ・ 手前1層は満杯後、約40日経過、表面に見える孔は、通気用の棒をさした跡
- ・ 中央2層は生ごみ投入後の土かけ作業中



〔グラフ〕 生ごみ処理実績

家族数：3人 1日平均700gを約5日分まとめて投入  
 期間中合計処理量：436Kg(内、約10%剪定枝・枯葉等)

